

## 在宅療養高齢者家族の介護負担に関連する因子の検討

岡澤 仁志

### 論文内容の要旨

本研究は、在宅療養高齢者の介護にあたり、介護負担に関連する因子を明らかにすることを目的とした。地域在宅療養高齢者 214 名（男性 63 名、女性 151 名、平均年齢  $85.5 \pm 7.2$  歳）に対して、認知機能、併存疾患、栄養状態、嚥下機能、咬合支持、食事時間を調査した。さらに、日常生活動作に関する介助の必要性、食形態調整の必要性、介護サービスの利用状況を調査した。主介護者の介護負担感は多次元介護負担感尺度（The Burden Index of Caregivers, BIC）で評価し、BIC を構成する 5 つのドメイン（時間的負担感、心理的負担感、実存的負担感、身体的負担感、サービス関連負担感）とともに、その関連を検討し、以下の結果を得た。

1. 主介護者の介護負担感は、要介護者の認知機能、着替え介助、排尿介助の必要性に加え、食形態の調整、食事時間の延長と関連を示した。
2. 身体的負担感は、食事時間の延長、着替え介助及び歩行介助の必要性と関連を示した。
3. 心理的負担感は、排尿介助の必要性と関連を示した。

### 論文審査の要旨

本研究は地域在宅療養高齢者及び主介護者の調査から、介護負担に関連する因子の検討を行ったものである。その結果、要介護者の認知機能低下、着替え介助、排尿介助などの介護負担関連因子のみならず、食事時間及び食形態の調整が介護負担の重要因子であることが示された。これらの知見により、食事関連因子の支援が、主介護者の介護負担感の軽減につながるものと考えられた。以上は、歯学に寄与するところが多く、博士（歯学）の学位に値するものと審査する。

主査 志賀 博

副査 沼部 幸博

副査 今井 敏夫

### 最終試験の結果の要旨

岡澤仁志に対する最終試験は、主査 志賀 博 教授、副査 沼部 幸博 教授、副査 今井 敏夫 教授によって、主論文を中心とする諸事項について口頭試験が行われ、優秀な成績で合格した。